

## 初修外国語，何を学ぶ？

富山大学の教養教育では、英語の他、ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・朝鮮語・日本語（外国人留学生限定），そして、自由科目としてラテン語を学ぶことができます。学部・学科により、必修・選択等の単位の指定が異なりますが、**英語以外の外国語を学び、国際的な行動力や文化的な知識の幅を広げることは、これからの時代を生きるみなさんにとって、貴重な経験となる筈です。**

でも、何を選んだらいいの？

迷う方も多いと思います。

必要単位数が2単位以下の場合には、履修の仕方についても、迷うかもしれません。

ここでは、まず、(a) 標準的な履修の際に対象となるドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・朝鮮語を取り上げ、紹介します。次に、(b) 外国人留学生限定の日本語、(c) 1年次より履修ができる発展多言語演習ラテン語（自由科目），そして(d) 履修を決める際に悩まれる点について、Q&A形式で答えてゆきます。

将来、国際的・文化的にどんな活動をするだろうか、どんな人たちと出会うだろうか…。専門を学び、専門分野で活躍する上で、どんな言語が力になるだろうか…。そんなことを考えながら、満足のゆく「もう一つの外国語」選びをして下さい。

【 目 次 】

みなさんの所属と初修外国語の選択・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

(a) 5つの外国語ってどんな言語？そして，どう選ぶ？・・・・・・・・ 3

    ドイツ語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

    フランス語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

    ロシア語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

    中国語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

    朝鮮語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

(b) 外国人留学生向け日本語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

(c) 発展多言語演習ラテン語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

(d) 履修で悩んでいたら (Q&A) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

## みなさんの所属と初修外国語の選択

みなさんの所属との関係で，注意していただきたい点があります。

- (1) 人文学部の学生で，ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，朝鮮語など，関連する文化圏について学部で専門的に学びたいと，すでに考えている方は，その言語を選択して下さい。
- (2) それ以外の学生の方については，所属によって，0単位以上～4単位まで，初修外国語の最低履修単位数は様々ですので，その点にお気をつけ下さい。ただし，最低数しか履修できないという意味ではありません。それぞれの言語で，『基礎Ⅰ』『基礎Ⅱ』『コミュニケーションⅠ』『コミュニケーションⅡ』の組み合わせ方を工夫していますので，以下の解説を参考に，教養での学習計画を練って下さい。

(a) 5つの外国語ってどんな言語？そして，どう選ぶ？

### ドイツ語

ドイツ語はドイツの他，オーストリア，スイス，リヒテンシュタインでも話され，公用語（あるいは公用語の一つ）とされています。また，ルクセンブルク，ベルギー，フランス，デンマーク，イタリアなどでも地域によってドイツ語が話されており，一般に公用語に準じた言語となっています。欧州連合（EU）では母語話者数としては最大であり，世界の言語の中で話者数の多い10言語のうちの一つです。言語系統的には英語と同じく，インド・ヨーロッパ語族のゲルマン語派に属しています。英語を知っている人には学びやすく，また英語との違いを知ることで英語への認識を深めることもできます。英語の *to drink wine* が *Wein zu trinken* になったりします (*Wein* = wine, *zu* = to, *trinken* = drink)。また，オランダ語など，ゲルマン語派系の言語への窓口にもなってくれます。かつて日本は，法律，工学，医学，哲学，文学，音楽など，多くの分野でドイツから学んできました。今でも専門用語で，あるいは文献で，ドイツ語に接する機会も多いと思います。また，ドイツは言わずと知れたヨーロッパ有数の文化・技術大国です。クラシック音楽やサッカー，環境問題への取り組み，国際政治の世界でも，存在感を誇っています。日本人にとって発音が容易な言葉ですし，スペルと発音とが密接に対応しているため，語彙学習では英語より楽と感じる方が多いでしょう。ただし，前学期中盤で習う名詞の格変化は英語にはない仕組みです。これが文法の鍵となるため，しっかり慣れることが大事です。特に，初

修外国語の必要単位数が2単位以下の学部・学科の方がドイツ語を選択される際には、基礎系の授業を必ずからめた学修計画を立てることを強くお勧めしています（詳しくは「教養教育における外国語系科目の履修について」を参照）。

### 【履修方法の選び方】

ドイツ語は、語順や格変化（「～は、～の、～に、～を」の表現）など文法理解が鍵となる言語です。そのため、「基礎」系授業を必ず組み合わせる形で、3つの履修方法が提案されています。まず、学部で求められている単位数を最低限クリアできるような気をつけて下さい（「教養教育における外国語系科目の履修について」）。その上で、自分にふさわしい履修方法について、以下の中のどれが良いか考え、希望調査に答えて下さい。

- ① ドイツ語4単位：「ドイツ語基礎Ⅰ」（1年前学期）、「ドイツ語コミュニケーションⅠ」（1年前学期）、「ドイツ語基礎Ⅱ」（1年後学期）、「ドイツ語コミュニケーションⅡ」（1年後学期）

対象学生(1)： 4単位選択必修が課せられた人文学部、経済学部用のコースです。両対象学部の方はこれを選択して下さい。

対象学生(2)： 上記(1)以外の学部の学生で、初級レベルのドイツ語を基礎（文法系）、コミュニケーション（会話、リーディング系）を一通りマスターしたい学生を対象としています。（所属の最低学習単位にプラスアルファして一通りを学ぶ「**プラスアルファ・コース**」です。プラスアルファ部分が教養全体の卒業要件の単位に換算される学部もあります。詳しくは「教養教育における外国語系科目の履修について」を参照）。なお、他の科目の学習が忙しく、後学期の「ドイツ語基礎Ⅱ」ないし（および）「ドイツ語コミュニケーションⅡ」の履修が難しくなるというようなケースもあると思います。その場合には、後学期履修登録時に履修計画の見直しが可能です。

学習内容： (a)基礎では、前学期で現在形を中心にドイツ語の鍵となる格変化（「～は、～の、～に、～を」の表現）やドイツ語の基礎的な語順の仕組みなどを学び、後学期では、過去表現や従属文、関係文などを学び、様々なドイツ語に接する上で役立つ、基礎知識を一通り学びます。(b)コミュニケーションでは、まず、前学期で、自己紹介や場所をたずねる表現、時刻、簡単な買い物の会話など、会話の第一歩を学ぶとともに、ザルツブルク、ウィーンなどの都市の簡単な紹介文を読み、ドイツ語の文章の読み方の最初の手引きを受けます。後学期では、道案内やチケットの買い方、料理の注文など、会話のシチュエーションを増やすとともに、従属文や過去形など、より本格的な文章で書かれた都市紹介を読み、読解の幅をひろげてゆきま

す。

こういう方に特におすすめ： ヨーロッパ，特にドイツ，オーストリアやスイスやその文化に関心がある方，ヨーロッパ系の外国語の幅を広げたい方。とりわけ，一通りのドイツ語の基礎力をこの際，獲得してしまおうという方におすすめです。週二回の学習（「基礎」，「コミュニケーション」）は，相乗効果があり，学習効率の向上が期待できます。しかし，自宅学習や小テスト，試験など，学習課題が増えることも確かです。楽しみつつ，意欲をもって，学習に挑戦できる方におすすめします。なお，1年後学期の履修登録期間で，履修計画を見直し，「基礎Ⅱ」「コミュニケーションⅡ」のどちらか一つにする，両者ともやむを得ず断念する，などの判断をすることもできます。

- ② ドイツ語2単位（入門モデル）：「ドイツ語基礎Ⅰ」（1年前学期），「ドイツ語コミュニケーションⅠ」（1年前学期）

対象学生： 人文学部，経済学部以外の学生で，とりあえず，導入段階の知識を文法，コミュニケーション（会話・読解）双方で得ておきたいと考える学生が対象です。学習により関心が増し，履修計画上問題がない場合には，1年後学期の履修登録期間に，「基礎Ⅱ」や「コミュニケーションⅡ」の追加学習も可能です。

学習内容： 前学期の2科目2単位の学習を基本とします，(a)基礎では，現在形を中心にドイツ語の鍵となる格変化（「～は，～の，～に，～を」の表現）やドイツ語の基礎的な語順の仕組みなどを学びます。(b)コミュニケーションでは，自己紹介や場所をたずねる表現，時刻，簡単な買い物の会話など，会話の第一歩を学ぶとともに，ザルツブルク，ウィーンなどの都市の簡単な紹介文を読み，ドイツ語の文章の読み方の最初の手引きを受けます。

こういう方に特におすすめ： 外国語に自信がないが，ヨーロッパや，ドイツ，スイスやオーストリアやその文化に関心がある方，とりあえず新しいヨーロッパ語系の外国語に挑戦してみたい方におすすめです。週二回学習（「基礎」，「コミュニケーション」）があるため，相乗効果のある受講が期待できます。しかし，週二回だと，自宅学習や小テスト，試験など，学習課題が増えることも確かです。まずは，前学期で挑戦してみてから，と考える方におすすめです。

- ③ ドイツ語2単位（基礎モデル）：「ドイツ語基礎Ⅰ」（1年前学期），「ドイツ語基礎Ⅱ」（1年後学期）

対象学生： 人文学部，経済学部以外の学生で，会話や読解などは断念しても，ドイツ語の言葉としての仕組みに一通り慣れておきたいと考えている方。学習により，

関心が増し，履修計画上問題がない場合には，1年後学期の履修登録期間に，「コミュニケーションⅡ」の追加学習も可能です。

学習内容： 基礎では，前学期で現在形を中心にドイツ語の鍵となる格変化（「～は，～の，～に，～を」の表現）やドイツ語の基礎的な語順の仕組みなどを学び，後学期では，過去表現や従属文，関係文などを学び，様々なドイツ語に接する上で役立つ，基礎知識を一通り学びます。

こういう方に特におすすめ： ヨーロッパや，ドイツ，スイスやオーストリアやその文化に関心がある。しかし，週2回分の学習には踏み切れない。それでも，とりあえず，ドイツ語の仕組みだけでも一通り知っておきたい。そういう方におすすめです。ただし，週1回の授業ですので，大事に，自宅での事前事後学習をしてゆく必要があります。わからない点など，積極的に担当教員に質問して下さい。

## フランス語

フランス語は，フランスをはじめとして，ヨーロッパ各地や北米大陸，アフリカ各地で母語として話されています。5大陸すべてに母語話者がいるのは英語ではなく，実はフランス語のみなのです。また，古くはヨーロッパの宮廷言語として，近代以降は外交言語として広く国際的に用いられ，今日およそ30カ国で公用語とされているほか，国際連合・国際サッカー連盟・国境なき医師団など数多くの機関で公用語のひとつに指定されています。現在の話者数は，母語として使用する者・公用語として母語に等しく使用できる者・文化言語として自由に使用できる者を合わせておよそ3億人といわれており，とくにアフリカでは今後も増加の一途をたどる模様で，30年後に世界で最も話者が多い言語は，英語でも中国語でもなく，実はフランス語である，という説もあります。言語系統的には，大まかにいうと英語やロシア語と同じインド・ヨーロッパ語族の言語ですが，さらに細かく分類すると，イタリア語やスペイン語などと同じラテン語の流れをくむロマンス語派に属します。中世英語の成立にも大きな影響を及ぼしていて，「豚肉 (pork)」「羊肉 (mutton)」など，英語には数多くのフランス語起源の言葉があることがよく知られています。またフランス語は，近代ヨーロッパの知を牽引してきた言語でもあります。たとえば「人権宣言」は，フランス語で発表されていますし，世界の民法の礎となったのは，ナポレオン法典です。これ以外にも史上に名を遺す数学者，物理学者，科学者，歴史学者，文学者など，枚挙にいとまがありません。フランス語は発音と文法構造が複雑で，独習の難しい言語だといわれています。だからこそ大学で学べるときに学んでおくことをぜひお勧めします。「フランスへ行きたしと思へどもフランスはあまりに遠し」と萩原朔太郎は詠いました。遠いからこそ，難しいからこそ，分かった時の満足感は計り知れないものがあるのです。フラ

ンス語学修で開ける，「美味しく」「楽しく」「美しい」世界に足を踏み入れてみませんか。

### 【履修方法の選び方】

教養教育のフランス語には，「フランス語基礎Ⅰ・Ⅱ」と「フランス語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」の授業の2種類があります。ローマ数字はレベルを表します（Ⅰは全くの初心者，ⅡはⅠより進んだレベルを表します）。「フランス語基礎」は，フランス語の仕組み（発音の規則，文法事項など）を講義形式でまとめて学修する授業です。また，「フランス語コミュニケーション」は，ネイティブスピーカーの教員を中心に，発音やコミュニケーションなどの反復練習によって「フランス語基礎」で学んだ発音の規則や文法事項を実践的に身に着ける少人数編成の実践中心の授業です。また，「フランス語コミュニケーション」の文法解説は「フランス語基礎」で行います。したがって，「フランス語基礎」と「フランス語コミュニケーション」はレベルごとに両方バランスよく履修することを強くお勧めします。特に，2年次以降フランス語圏への短期研修参加や交換留学を考えている場合は，以下の履修方法に限らず，なるべく多くのフランス語の授業を履修しておくことを強くお勧めします。

本学のフランス語は共通の教科書を用い（「フランス語基礎」も「フランス語コミュニケーション」も同じ1冊の教科書です），共通シラバスに基づいて進度をそろえて開講されます。したがって，「フランス語基礎Ⅰ・Ⅱ」は1クラス開講，「フランス語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」は複数クラス開講となりますが，どの教員のクラスを履修しても同じ進度，内容になるように教員間で連携しています。中間テスト，期末テストは，統一試験となります。

そのうえで，フランス語を選択する場合には，学部で求められている単位数（「教養教育における外国語系科目の履修について」）を参考に，自分にふさわしい履修方法を以下の中から一つ選び，希望調査に答えて下さい。

- ① フランス語4単位履修の学部（人文学部，経済学部）：「フランス語基礎Ⅰ」（1年前学期），「フランス語コミュニケーションⅠ」（1年前学期），「フランス語基礎Ⅱ」（1年後学期），「フランス語コミュニケーションⅡ」（1年後学期）の4科目を履修してください。
- ② フランス語2単位履修の学部（人間発達科学部，理学部，医学部医学科，薬学部，芸術文化学部）：原則として，前学期開講の「フランス語基礎Ⅰ」および「フランス語コミュニケーションⅠ」の科目を履修してください。さらに興味がわいたら，後学期の「フランス語基礎Ⅱ」や「フランス語コミュニケーションⅡ」を受講することもお勧めします（後学期の履修登録期間に追加登録してください）。

また，前学期で単位取得できなかった方，後学期になってから勉強したいと思った方には，後学期にも「フランス語基礎Ⅰ」および「フランス語コミュニケーションⅠ」が開講されますので，この組み合わせで履修しても構いません。

既修者等の場合は，「フランス語基礎Ⅱ」「フランス語コミュニケーションⅡ」（1年前学期または1年後学期）の組み合わせで受講することも可能です。ただし，レベル確認のため，早めに担当教員に相談してください。

- ③ フランス語自由履修の学部（医学部看護学科，工学部，都市デザイン学部）：②に準じます。「フランス語基礎」または「フランス語コミュニケーション」1科目のみの履修では，十分な効果が期待できません。

## ロシア語

ロシア語は，ロシア連邦の公用語であるほか，旧ソ連のウクライナやベラルーシ，中央アジア，コーカサス地方などで話されています。また旧ソ連以外でも，移民の多いアメリカ，カナダ，ヨーロッパ地域，イスラエルなどでロシア系住民を中心に広く使われています。話者数はおよそ2億6000万人で，実はヨーロッパでいちばん話者が多い言語はロシア語です。国連の公用語にも指定されています。文字は，ギリシア文字からつくられたキリール文字を使用します。これはロシアがビザンツ帝国から東方キリスト教を受容した歴史と関係があります。言語系統的には，英語・ドイツ語・フランス語と同じインド・ヨーロッパ語族の言語で，ヨーロッパ三大民族の一つのスラヴ語派に属します。文字が英語とは異なるので，はじめは難しそうに思えるかもしれませんが，例年ゴールデン・ウィークがあける頃には受講者はロシア語の文字が，読み・書き・話せるようになります。日本語になったロシア語に，イクラ< икра（魚卵），インテリ< интеллигенция（知識階級），ウォッカ< водка（無色の蒸留酒）などがあり，ロシア語になった日本語に，иваси<イワシ，кимоно<着物，цунами<津波，などがあります。文法は典型的な屈折語タイプで，名詞類が六つも格変化（日本語のテニヲハに近いものです）し，覚えることはたくさんありますが，その分文法がきっちりしているので，勉強を続ければ学部生でもドストエフスキーやチェーホフの小説が原典で読めるようになります。授業は，基礎クラスを日本人教員が，コミュニケーションをネイティブ教員が担当します。ロシア語を文法的に理解し，かつその生きた息吹にふれるために，ぜひ両クラスをペアにして受講してください。ロシアは日本の隣国であり，日本と歴史的に深いかかわりをもってきました。皆さんもご存じのように，芸術とスポーツに秀でた国で，21世紀の今，国際政治の舞台でもロシアの重要性はますます増しています。ちなみに富山県は，日本全国で県民の人口に比して在住ロシア人の人口密度が最も高い県です。日本海へと開いた，ロシアへの窓たるべき富山で，あな



たもロシア語を勉強してみませんか。

### 【履修方法の選び方】

- ① ロシア語4単位：「ロシア語基礎Ⅰ」（1年前学期），「ロシア語コミュニケーションⅠ」（1年前学期），「ロシア語基礎Ⅱ」（1年後学期），「ロシア語コミュニケーションⅡ」（1年後学期）

前・後学期の2学期にわたって1週間に2コマ履修するタイプです。4単位必修の人文学部・経済学部の学生は，このタイプを選んでください。人文学部・経済学部以外でも，必修単位数にかかわらず学修する意欲のある学生は，このタイプを選択することができます。

授業は，基礎クラスを日本人教員が担当し，コミュニケーションをネイティブ教員が担当します。基礎クラスでは，ロシア語の文字（キリール文字）の読み書き・発音からはじめて，初級レベルの文法中心の学修を行い，コミュニケーションでは，それらの文法的な知識をふまえて，会話中心の学修を行い，様々なシチュエーションに応じた話しことばの定型表現を修得します。

ロシア語4単位履修タイプの授業では，前学期に，名詞の性と格変化，動詞の時制（現在・過去・未来），数の表現，簡単な形容詞と副詞，命令法などを学修し，「これは何か／誰か？」「何がどこにあるか？」「誰のものか？」「どこで働いているか？」といったテーマで会話ができるようになり，最後に「私の家族」というテーマで簡単な紹介文をロシア語で書けるようになることをめざします。後学期には，運動の動詞，無人称述語，比較級，仮定法，関係代名詞などを学修し，「私の好きなもの」，「買い物」や「趣味」，「旅行」といったテーマで会話ができるようになり，最後にCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）ロシア語熟達度A1レベルに達することをめざします。

- ② ロシア語2単位：「ロシア語基礎Ⅰ」（1年前学期），「ロシア語コミュニケーションⅠ」（1年前学期）

前学期にのみ1週間2コマ履修するタイプです。人文学部・経済学部以外で，前学期に集中的に学修をする学生は，このタイプを選んでください。なお，前学期に学修を進めるなかで，後学期にも引き続き学修を継続する意欲が沸いた場合には，後学期の開講時に，「ロシア語基礎Ⅱ」（1年後学期），「ロシア語コミュニケーションⅡ」（1年後学期）の追加登録をすることができます。

授業は，基礎クラスを日本人教員が担当し，コミュニケーションをネイティブ教員が担当します。基礎クラスでは，ロシア語の文字（キリール文字）の読み書き・

発音からはじめて、初級レベルの文法中心の学修を行い、コミュニケーションでは、それらの文法的な知識をふまえて、会話中心の学修を行い、様々なシチュエーションに応じた話しことばの定型表現を修得します。

ロシア語2単位履修タイプの授業では、名詞の性と格変化、動詞の時制（現在・過去・未来）、数の表現、簡単な形容詞と副詞、命令法などを学修し、「これは何か／誰か？」「何がどこにあるか？」「誰のものか？」「どこで働いているか？」といったテーマで会話ができるようになり、最後に「私の家族」というテーマで簡単な紹介文をロシア語で書けるようになることをめざします。

## 中国語

中国語は中華人民共和国をはじめ、台湾やシンガポールで公用語となっているほか、世界各地に住む漢民族（華僑）の間でも話されています。話者は世界一多く、国際連合の公用語の1つにもなっています。中国語は方言の違いが大きく、たとえば香港やマカオで公用語となっている広東語も中国語の方言の1つですが、他の地方の人に広東語を話しても全く通じません。そのため北京語をもとにした共通語である「普通話」が普及しており、我々が学ぶのもこの「普通話」です。「普通話」は中国全土で通じるほか、台湾・香港・マカオでは「国語」、シンガポールでは「華語」と呼ばれ、世界の中国語話者の間で広く通用しています。言語系統的には、シナ・チベット語族に属し、日本語とは系統が異なる言語です。広大な国土を誇る多民族国家である中国は、長い歴史と豊かな文化を持ち、漢方、武術、中華料理なども有名です。中国語ができれば、様々な視点で中国を楽しむことができるでしょう。中国語は、漢字に慣れている日本人にとっては取り組みやすい言語であると思われる方も多いでしょう。もちろん、日本語と同じ意味を表す語句も多くあります。しかし、意味が全く違うものがあつたり（たとえば中国語で「走」は「歩く、離れる」等の意味で、「手紙」は「トイレトペーパー」という意味）、「簡体字」という簡略化された字形の漢字が使われていたり、注意が必要です。また、中国語は発音が難しいと感じる方も多いでしょう。音の高さの上げ下げで意味が変わったり（たとえば「ma」を高く平らに読むと「お母さん」、低く抑えて読むと「馬」という意味）、発音の仕方も日本語とは違ったりします。そこで、はじめに学ぶ発音からしっかりと取り組むことが重要です。特に、初修外国語の必要単位数が2単位以下の学部・学科の方が中国語を選択される際には、基礎的な文法を一通り身につけるために「中国語基礎Ⅰ・Ⅱ」の履修を基本とし、さらに興味がある場合はコミュニケーションの授業をあわせて履修してください。

中国語を選択する場合には、学部で求められている単位数（「教養教育における外国語系科目の履修について」）を参考に、自分にふさわしい履修方法を以下の中から一つを選び、希望調査に答えて下さい。

## 【履修方法の選び方】

- ① 中国語4単位（週2回コース）：「中国語基礎Ⅰ」（1年前学期），「中国語コミュニケーションⅠ」（1年前学期），「中国語基礎Ⅱ」（1年後学期），「中国語コミュニケーションⅡ」（1年後学期）

対象学生：人文学部，人間発達科学部，経済学部，理学部，医学部，薬学部，工学部，芸術文化学部，都市デザイン学部（人文学部，経済学部の学生は，中国語を履修する場合，必ずこちらのコースを選択して下さい。）

学習内容：文法中心の「中国語基礎」と会話中心の「中国語コミュニケーション」の授業を組み合わせ、1週間に2回の学修（「基礎」，「コミュニケーション」）で、中国語普通話（標準語）を学ぶコースです。「コミュニケーション」は中国語ネイティブの先生が担当します。このコースは、1週間に2回の授業があるので、より深く中国語を学ぶことができます。「基礎」の授業では、テキストに沿って初歩的な文法を学び、理解し、活用できるようになることを目指します。「コミュニケーション」の授業では、発音・聞き取りの練習を繰り返すことで、あいさつをはじめとする簡単な会話ができるようになることを目指します。

- ② 中国語2単位（週1回コース）：「中国語基礎Ⅰ」（1年前学期），「中国語基礎Ⅱ」（1年後学期）

対象学生：人間発達科学部，理学部，医学部，薬学部，工学部，芸術文化学部，都市デザイン学部

学習内容：「中国語基礎」を通して、1週間に1回の学修で、中国語普通話（標準語）を総合的に学ぶコースです。中国語に興味はあるが、「基礎」と「コミュニケーション」の週2回の学修には踏み切れない、中国語の仕組みについて一通り知っておきたいという方におすすめです。授業では、基礎的な文法をベースにして、初歩的な「読む・書く・聞く・話す」能力の向上を目指します。ただし、授業は1週間に1回しかないので、自宅ですっかりと予習・復習をする必要があります。

## 朝鮮語

[朝鮮語の特色] 朝鮮語は、主として朝鮮半島（大韓民国・朝鮮民主主義人民共和国）で使われている言語で、朝鮮半島以外の地域でも、中華人民共和国の東北3省（吉林省・遼寧省・黒竜江省）やロシア沿海州・サハリン，ウズベキスタンやカザフスタンなど中央アジアに住む朝鮮族の間でも使われ、また、日本や北米などにもこの言語の話者が暮らしていま

す。朝鮮語を母語として話す人は7000万人を超えと言われる、世界に5000あるとも7000あるとも言われる言語の中で、12～13位ほどになります。学者たちの懸命な努力にも拘わらず、その系統は未だ明らかにはされていませんが、言語構造の類型的な分類では日本語と同様に膠着語に属し、用言に付く語尾や体言に付く助詞が発達しているのが特徴です。それ以外にも、基本語順が「主語+目的語+述語動詞」の順であることや、文法体系としての敬語法が発達していること、漢字語が多く用いられることなど、日本語との類似点を数多く挙げるができる言語です。

[授業の進め方] 授業では、ハングルと呼ばれる文字の読み書きからはじめ、基礎的な文法事項、平易な文章、会話表現の習得へと進んでいきます。何よりも、初期の段階で文字の習得を着実にしていくことが大切です。

#### 【履修方法の選び方】

- ① 朝鮮語4単位：「朝鮮語基礎Ⅰ」（1年前学期）、「朝鮮語コミュニケーションⅠ」（1年前学期）、「朝鮮語基礎Ⅱ」（1年後学期）、「朝鮮語コミュニケーションⅡ」（1年後学期）

前・後学期の2学期にわたって1週間に2コマ履修するタイプです。4単位必修の人文学部・経済学部の学生は、このタイプを選んでください。人文学部・経済学部以外でも、必修単位数にかかわらず学修する意欲のある学生は、このタイプを選択することができます。

授業では、ハングルと呼ばれる文字の読み書き・発音からはじめて、基礎では基本的な助詞を学んだ上で、数詞や指示詞、その他の平易な語彙を使った現在形・過去形の肯定文・否定・不可能文などを前学期に、意思形、尊待表現、命令・依頼表現、複数の文を接続させる表現、人から伝え聞いたことを引用する間接話法などを後学期に学びます。コミュニケーションでは、これらの文法的な基礎のもと、会話や聴解の練習を繰り返すことで、口語でよく使われる表現について学び、状況にふさわしい表現を使い分ける実践的な語学能力を磨いていきます。週2コマの学修を1年間続けることにより、読解・作文・会話・聴解といった朝鮮語の総合的な語学力をバランスよく修得することができます。

- ② 朝鮮語2単位：「朝鮮語基礎Ⅰ」（1年前学期）、「朝鮮語コミュニケーションⅠ」（1年前学期）

前学期にのみ1週間2コマ履修するタイプです。人文学部・経済学部以外で、前学期に集中的に学修をする学生は、このタイプを選んでください。なお、前学期に学修を進めるなかで、後学期にも引き続き学修を継続する意欲が沸いた場合には、後学期の開講時に、「朝鮮語基礎Ⅱ」（1年後学期）、「朝鮮語コミュニケーションⅡ」（1年後学期）

ンⅡ」（1年後学期）の追加登録をすることができます。

授業では、ハングルと呼ばれる文字の読み書き・発音からはじめて、基礎では基本的な助詞を学んだ上で、数詞や指示詞，その他の平易な語彙を使った現在形・過去形の肯定文・否定・不可能文などを学びます。コミュニケーションでは，これらの文法的な基礎のもと，会話や聴解の練習を繰り返すことで，口語でよく使われる表現について学びます。週2コマの学修を前学期に集中的に行うことにより，朝鮮語の基礎的な素養を修得するとともに，以後に学修を継続する際の橋渡しをいたします。

③ 朝鮮語2単位：「朝鮮語基礎Ⅰ」（1年前学期），「朝鮮語基礎Ⅱ」（1年後学期）

前・後学期の2学期にわたって1週間に1コマ履修するタイプです。人文学部・経済学部以外で，ゆっくりと着実に学修をする学生は，このタイプを選んでください。

授業では，ハングルと呼ばれる文字の読み書き・発音からはじめて，基本的な助詞や現在形・過去形の肯定文・否定文・不可能文，尊待表現といった文法事項とともに，何かを尋ねる表現，何かを頼む表現，希望を言う表現など，より実践的なコミュニケーション能力も身につけていきます。週1コマの限られた時間で，朝鮮語の基本的な表現に絞ってその文型を修得し，各自の家庭での学修でもって補い，さらに応用・発展させることができるようにいたします。

なお，自由科目として学修する場合や，既習者が履修する場合は，開講時に担当教員に相談してください。

## (b) 外国人留学生向け日本語

外国人留学生のみなさんには，英語以外のもうひとつの外国語として，「日本語」を選ぶことを強くお勧めします（日本語を必修としている学部もあります）。先輩外国人留学生もほとんど例外なく「日本語」を選んでいきます。日本の大学で学ぶためには，高い日本語能力が望まれるからです。

「日本語」は初修外国語に分類されていますが，「日本語」だけは初修のレベルではありません。日本語能力試験N1以上のレベルを目指しています。外国人留学生が学部で専門の学習や研究を行うためには，日本語のレベルを上げることがとても重要だという観点で，「日本語」の授業はデザインされています。日本語で，大学の講義を聞く，専門の論

文を読む，レポートを書く，講義内容について自分の意見を述べる／議論をする等がすぐに求められる技能です。

初修外国語4単位履修の学部は，前学期に「日本語リテラシーⅠ」と「日本語コミュニケーションⅠ」，後学期に「日本語リテラシーⅡ」と「日本語コミュニケーションⅡ」を履修します。

初修外国語2単位履修の学部は，前学期に「日本語リテラシーⅠ」と「日本語コミュニケーションⅠ」を履修します。後学期も，自由選択科目として続けて「日本語リテラシーⅡ」と「日本語コミュニケーションⅡ」を取ることができます。

初修外国語の規定がない学部も，自由選択科目として，前学期に「日本語リテラシーⅠ」と「日本語コミュニケーションⅠ」を取ることができます。そのあと，後学期も続けて「日本語リテラシーⅡ」と「日本語コミュニケーションⅡ」を取ることができます。

### (c) 発展多言語演習ラテン語

発展多言語演習のうちラテン語については，一年次でも履修ができます。自由科目となっているため，履修計画をたてる際には卒業要件単位として算入することはできません。

(2017年度以前の入学生は、卒業要件単位として算入できます)しかし，知っているとは非常に大きな力となります。

というのもラテン語は，フランス語やスペイン語，イタリア語など，いわゆるラテン系の諸言語の母胎となった言葉で，英語やドイツ語などゲルマン系の言語にもラテン語に由来する表現が無数に見出されます。ラテン語は古代ローマ帝国で公用語として使われて以来，2千年近くにわたって，ヨーロッパの学問，文化の共通言語であってきました。現在でも，医学やその他諸々の自然科学の学名でラテン語が使われているのは，そのためです。ですから，ラテン語を学ぶことは，ヨーロッパの歴史や思想を学ぶ学生にとっては，文献調査をする上で力となりますし，自然科学や，特に医療系の学問を学ぶ学生にとっては，その専門用語を理解する上で重要な意味をもちます。

専門分野の学修に限らず，ラテン語は案外身近なところにもあります。例えば，時計の文字盤でおなじみのI, II, III, IVも，ラテン語の数字に由来します。また，「大学のキャンパス」と言うときの「キャンパス」は，もとはラテン語で広場を意味するcampusから来ています。そして「大学」を意味して「ユニヴァーシティ」と言うときの「ユニ」は，ラテン語で「一つ」を意味するunus，「ヴァーシティ」は，「向けられている」ことを意味するversusから来ています。つまり「大学」というのは，諸々のものが一つの方向をめざす集まりを意味しているのです。こうして語源を知ると，ふだん何気なくとらえていたものが違った視点から見えてきます。

大学には多様な専門分野がありますが、知を探究するという一つの方向を持つ点で一致しています。ラテン語の授業にも、毎年様々な関心を持つ学生が集います。知的探究をいっそう深めるために、ぜひラテン語を学修されることをおすすめします。

対象学生： 全学部，全学年の学生が履修できます。

学習内容： 前学期には初級ラテン語文法の前半を学び，後学期には後半を学びます。前・後学期とも履修すれば，教科書を一冊終え，初級ラテン語文法を一通り学んだこととなります。授業では，毎回教科書を一課ずつ進めていきます。合間に，ラテン語に関する資料を見たり，ラテン語で歌われた歌を聞くなどして，ヨーロッパ文化の歴史も学んでいただきます。

こういう方に特におすすめ： ヨーロッパの文化に関心のある方。語学そのものに関心のある方。英語を含め，西洋の諸語の理解を深めるためにラテン語の学習は大いに役立ちます。医学，薬学，生物学，その他自然科学を専攻する方。専門用語を覚えるのに役立ちます。哲学，西洋史，西洋文学を専攻する方。ラテン語で書かれた基礎文献を読めるようになります。大学でしか学べないことを学びたい方。富山県でラテン語が学べる希少な機会です。

週1回の授業ですので，自宅での事前事後学習をしてゆく必要があります。わからない点など，積極的に担当教員に質問して下さい。

#### (d) 履修で悩んでいたなら (Q&A)

Q1. 語学は苦手です。ついていけるかとても心配です。

A1. どの外国語の授業も，初めてその言語を学ぶ人を対象に開講されます。文字の読み方・発音の仕方から始まり，段階的にステップアップしていきますので，安心して前向きに取り組んで下さい。

Q2. 私も語学は苦手です。一番学修しやすい言語はどれですか？

A2. どの言語が学修しやすいかは人それぞれです。また，習ってみて魅力を感じると，多少難しくても楽しみながらついて行けたりもします。プリント前半の解説を参考に，自分の専門科目との関連性や関心に一番マッチした言語を選ぶことをお勧めします。

Q3. シラバスを見ると，ひとつの外国語に担当教員の異なる複数の授業がありますが，担当教員を選ぶことができるのですか？

A3. 教員を選ぶことはできませんが，履修したい言語と履修方法の組み合わせを選ぶことはできます。ただし，履修希望者数が定員を上回る場合は抽選等を行って振り分けます。申請時に，履修したい言語と履修方法の組み合わせについて，第1希望から第3希望まで必ず記入してください。

Q4. 私の学部では卒業要件としては2単位以上（私の学部では履修単位数の規定がない）ですが，前学期で基礎・コミュニケーション2科目を受講した方が良いでしょうか。それとも，前学期に1科目，後学期に1科目で良いでしょうか。

A4. そうした学部・学科についての履修の仕方は，各言語で指定が異なります。必ず「教養教育における外国語系科目の履修について」で確認して下さい。また，不合格となり指定の単位数が取れなくなることが心配な場合には，前学期から基礎，コミュニケーションの両方を受講できるよう，登録することをお勧めします。週2回継続的にその言語に触れることで学修効率が良くなり，単位修得の確率が向上すると思われれます。ただし，履修する授業全体の学修量も計算し，自分にとって最善となる学修計画を立てて下さい。

Q5. 私が所属する学部では初修外国語について2単位と規定されているのですが，3単位以上履修することはできないのでしょうか？

A5. できます。2単位と記されていても，あるいは単位数の設定自体がなくても，履修は可能です。また，学部・学科が指定した卒業要件単位として算入する単位の上限の範囲であれば，卒業要件単位として算入できますので，詳細については「教養教育における外国語系科目の履修について」の中で自分が所属する学部・学科の卒業要件単位の内訳について，どう設定されているか，よく確認して下さい。

Q.6. 私の学部も初修外国語は2単位です。しかし，私は外国語が好きなので4単位履修したいと考えています。ただ，他の選択科目の単位が，前学期で十分に揃わなかった場合，後学期に初修外国語の授業を受ける余裕がなくなるのではないかと，心配しています。4単位の履修方法を選んでおきながら，後学期になってから後学期分の受講を取りやめることは可能なのでしょうか。



Q.6. 大丈夫です。ただし、あらかじめ自分にあった履修計画をたてることも大事です。無理しすぎないように注意しながら、その中で自分の可能性を伸ばせるような履修計画を工夫して下さい。

Q7. 卒業に必要な初修外国語科目の単位を，複数の初修外国語，例えばドイツ語とロシア語で修得することはできますか。

A7. できません。一つの初修外国語を選んで履修して下さい。

Q8. 複数の初修外国語を学修したい場合は，どのような方法がありますか。

A8. まず一つの初修外国語で，各学部で指定された卒業要件単位を満たす計画を立ててください。更に別の外国語を履修することは可能ですが，それが卒業要件単位に含まれるかどうかは，「教養教育における外国語系科目の履修について」に記載された各学部の卒業要件単位一覧で確認してください。

Q9. 私は子供時代を中国で過ごし，基本的な中国語は分かります。こうした場合でも，初修外国語の「中国語」を履修しても構いませんか。

A9. せっかくのチャンスですから，もうひとつ別の言語にチャレンジするのも悪くないかもしれません。ただし，色々なケースが考えられます。各言語の担当教員に相談に行ってもらい必要がありますので，教養教育支援室に4月5日（金）までに申し出てください。別途指示します。

Q10. 私は高校時代に2年間フランス語を学び，フランス語検定の3級を持っています。英語以外の初修外国語は，学んだことのあるフランス語を取っても構いませんか？ でも，それではつまらないようにも思います。

A10. せっかくのチャンスですから，もうひとつ別の言語にチャレンジするのも悪くないかもしれません。なお，フランス語，ドイツ語を履修する場合は，フランス語検定やドイツ語検定（4級以上）の合格証を提出することによって単位認定を受けることもできます。詳細については「教養教育における外国語系科目の履修について」で確認して下さい。